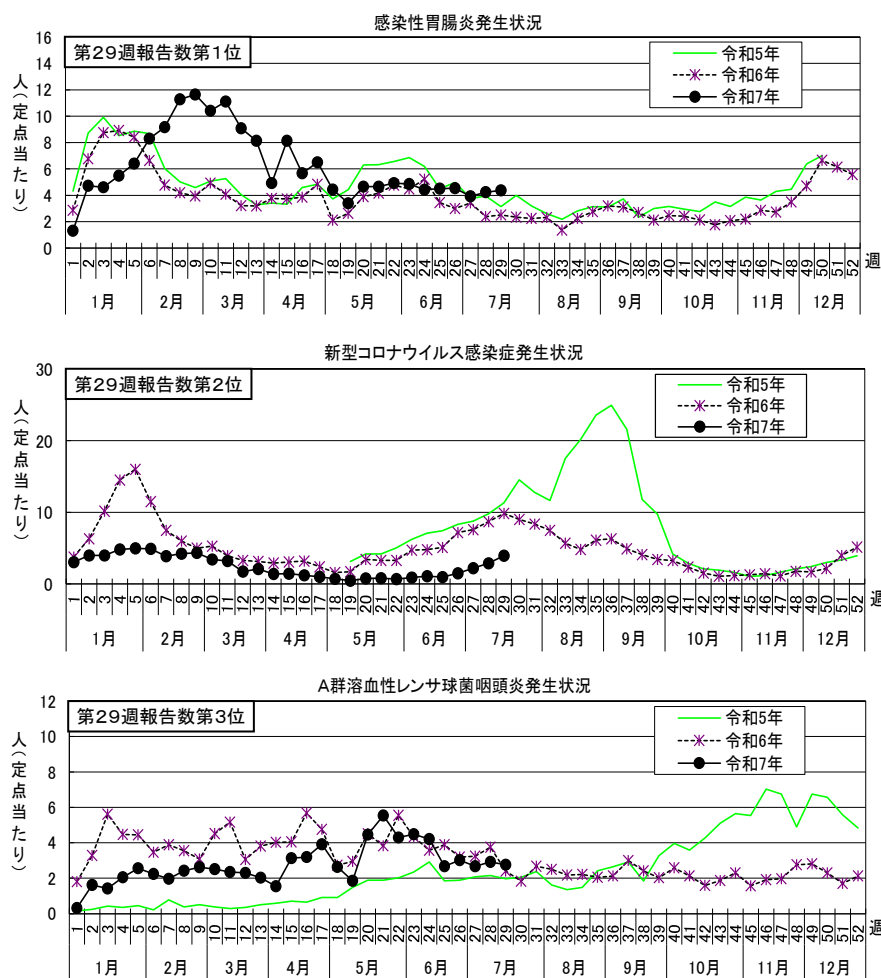


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年7月14日（月）～令和7年7月20日（日）〔令和7年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）新型コロナウイルス感染症 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.38人と前週（4.24人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.93人と前週（2.90人）から増加しました。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.76人と前週（2.92人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



ダニが媒介する感染症に気を付けて！

感染症の中には病原体を保有するダニに咬まれることで感染する疾患があり、国内では重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病等が報告されています。特にダニの活動が盛んになる春から秋にかけては、ダニに咬まれる危険性が高くなるため注意が必要です。

ダニから身を守るためには、山や畑等で活動する際に長袖・長ズボンを着用する等、肌の露出を減らすことが大切です。また、ダニが付着していることに気が付いた場合は、無理に引き抜かず、医療機関で処置をしてもらい、数週間程度は体調の変化に注意をしましょう。

ダニから身を守るためには

長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する。

シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴や靴下の中に入れる。

服に付いたダニはガムテープを使用して取り除く。

屋外での活動後は入浴し、咬まれていないか確認する。

肌の露出を少なくする。

帽子、手袋を着用し、首にはタオルを巻く。

明るい色の服を着る。
付着したダニが目視で確認しやすくなる。

足を完全に覆う靴を履く。
サンダル等は避ける。

医療機関受診のポイント

- ダニに咬まれた後、数週間程度は体調変化に注意し、発熱等の症状がみられた場合は、医療機関を受診する。

- 医療機関を受診する際は、以下の3つを医師に伝える。

野外活動の日付 野外活動の場所 発症前の行動



ペットからの感染にも気を付けて！

SFTSはウイルスを保有するダニに咬まれることで感染することがほとんどですが、近年はSFTSウイルスに感染したペット等に咬まれたことが原因で感染した事例も報告されています。

SFTS以外にもペットから感染する感染症がありますので、過剰な触れ合いは控え、ペットに触れた後は必ず手を洗いましょう。